

再生産表式について

小幡道昭

2005年4月22日 金曜日

1 一般的な取り扱い

1.1 「社会的再生産」

経済原論の体系上、表式に相当する内容は、まず「生産論」の冒頭で価値増殖過程を論じるところで、「社会的再生産」として明示的に説明する必要がある。生産価格を「競争論」（市場機構論）としてあとで説くときにも、同じく（1）部門編成（2部門ではなく他部門でもよい）と、（2）他部門の生産手段を用いて生産がなされるという再生産、この二つの要因を明示することが前提になる。『資本論』の場合、再生産表式のかたちで明確にされているこの二つの要因が、他の領域で必ずしも明確にされていない点に限界がある。

1.2 固有の意味での「再生産表式」

表式には以上のような「社会的再生産」につきない、固有の内容がある。蓄積—拡大再生産という側面である。これをいかに扱うかが問題として残る。

2 理論的な諸問題

2.1 $V+M$ のドグマと表式

再生産表式の最大のポイントは、生産手段を生産するための生産手段の理論的処理にある。スミスのドグマ（ C の $V+M$ への分解説）批判が表式の基礎になっている。

しかし、 C の自己補填に関して、期間の問題がうまく処理されている、わからないところがある。スラッフアのリカード解釈におけ日付のある労働の問題が残っているのではないか。